



サイエンスチャレンジ岡山2025

岡山県マスコット ももっち

—サイエンスチャレンジ岡山とは—

科学に興味関心が高い高等学校等の生徒が、団体で協力して科学技術・理科・数学等における複数分野の競技に取り組むことを通して、科学に関する更なる興味関心の高揚及び学力の向上を図ります。

筆記競技

理科、数学、情報の中から、知識を問う問題及び知識の活用について問う問題で競います。教科・科目の枠を超えた融合的な問題も出題されます。



実技競技①

「帰ってこい！！桃太郎CAR～お宝回収大作戦～」 化学反応をエネルギーとして駆動する車を制作し、時間内に離れた場所にある“お宝”を多く回収する競技です。



実技競技②

「フィールドワークin就実大学」 大学構内の所定エリアをフィールドとし、生物・地学に関する問い合わせを中心にフィールドワークを通して解答します。



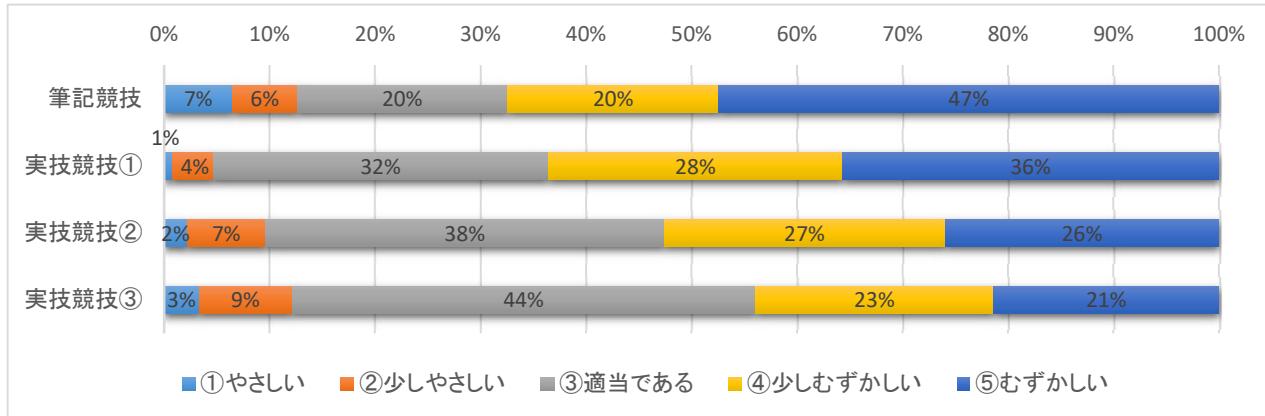
実技競技③

「ハシトハシ」 身近にある紙(A4コピー用紙)と、割り箸・輪ゴムを材料に「ピンポンとばし」「橋」の2種目に挑戦します。

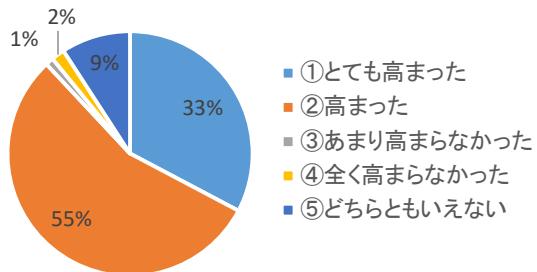


サイエンスチャレンジ岡山2025 生徒アンケート

1 競技の難易度について

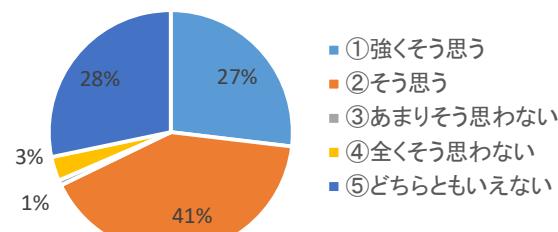


2 サイエンスチャレンジ岡山に参加して、科学への興味関心がさらに高まりましたか。



4 サイエンスチャレンジ岡山に参加しようと思った動機は何ですか。(複数回答可)

3 将来、科学を必要とする職業に就きたいと思いますか。



5 参加生徒・引率教員の声

- ・応用問題が多くて頭をフル回転させるのが楽しかった。話し合いながら解くのが新鮮だった。<筆記競技>
- ・普段触れない分野にも挑戦できて、自分の得意・不得意がよく分かった。<筆記競技>
- ・地学や情報の問題など、幅広い内容に触れられたのがよかったです。<筆記競技>
- ・昨年より難しく感じたが、解けたときの達成感が大きかったです。<筆記競技>
- ・車の工夫や改良に仲間と一緒に挑むのがワクワクした。<実技競技①>
- ・他校のアイデアを見て「こんな方法もあるのか」と刺激を受けた。<実技競技①>
- ・安定と速度のバランスを考えるのが面白く、もっと上手く作りたくなかった。<実技競技①>
- ・本番でうまく走らなかったのが悔しくて、リベンジしたい気持ちになった。<実技競技①>
- ・地図を見ながら歩き回るのが冒険みたいでとても楽しかった。<実技競技②>
- ・岡山や身の回りの科学を扱う問題が多く、学びと発見がいっぱいあった。<実技競技②>
- ・望遠鏡の調整一つで見え方が全然違って、理科の不思議を実感できた。<実技競技②>
- ・カブトガニなどの問題で、考えて当たった瞬間は最高の快感だった。<実技競技②>
- ・同時に作業する緊張感の中で、チームで工夫を重ねるのがすごく盛り上がった。<実技競技③>
- ・紙1枚でも折り方で強さが変わるのが驚きで、科学って面白いと思った。<実技競技③>
- ・他校の橋の構造が自分たちと全然違っていて、新しい発想に触れられた。<実技競技③>
- ・ピンポン飛ばしは難しかったけれど、成功した瞬間の達成感が大きかったです。<実技競技③>
- ・会場が広くて設備もよく、競技に集中しやすかったです。<会場>
- ・雰囲気が明るく、わくわくしながら参加できた。<会場>
- ・初めて会う人とも仲良くなれて、一緒に挑戦する楽しさを味わえた。<その他>
- ・スタッフの皆さんが盛り上げてくれて、とても良い思い出になりました。<その他>
- ・生徒が夢中になって取り組む姿から、科学の魅力を再確認できる大会だと感じた。<教員>
- ・成功・失敗をどちらも経験することで、ものづくりのリアルな学びが得られた。<教員>
- ・他校との交流や作品の比較が、生徒に良い刺激を与えていた。<教員>
- ・チームで課題に挑む過程が、協調性や発想の広がりにつながっていた。<教員>
- ・「来年も出たい」という声が多く、科学への興味を確実に高める機会となっていました。<教員>